

無韻

宮坂静生



姥百合のカムイの意志にさからはず
火を噴くも泉の湧くもおのづから
かおる・葉子翠巒に溶け軽井沢
パリ祭の灼けじりじりと葱白む
桃稔る樹下に銀紙敷き詰めつ
暑がけぶるまゝ大八ヶ岳の夜も吼え



片陰をゆく蹠音の遠くまで
打ちまくる祭太鼓の無韻かな
宵宮の陰からつまり齡充つ
飛魚^{あご}先へ先へといのち押し遣れり
飛魚^{あご}の翅のぼろぼろみみらくは
福江島恋し
喝死^{えら}せしツタンカーメン王の従者^{ずさ}